

B-66 新潟県における冬期の就寝状況について (第1報)

県立新潟女子短大 多田 千代
柏崎常盤高校 ○高橋 類子

1. 裏日本の雪積地帯に属する本県下の冬期就寝状況、とくに豪雪地帯のそれを明らかにした。寒い北日本に脳卒中が多いことの大きな原因が「重い掛けぶとん」にありはしないかと考えられ出している。このような、人間の健康と生活習慣との関係を知ろうとする場合の基礎資料を得るのが本研究の目的である。

2. 県下を五つに地帯区分し、計500世帯について、昭和31年、38年の2回、それぞれ実地調査とアンケート調査方式で、寝室の状況、採暖法を調べ、また豪雪地では併せて寝具構成も調査した。

3. 昭和31年度調査では

1) 寝室の敷物……市部では99%が畳敷であり、郡部では52%が畳敷、45%がむしろ敷であった。

2) 就寝中の採暖……市部では68%、郡部で85%が採暖しているが、両者とも部分採暖が多い(主として市部では「電気あんか」を用い、郡部では炭火の「堀こたつ」の周囲に寝ていた)。

3) 豪雪地の寝具構成……14種にも分けられるが、最も多いのは掛けぶとん2枚、敷ぶとん2枚の構成であった。また藁の敷ぶとん使用者は40%もあった。掛けぶとんの総重量は、市部、平坦部より重く、とくに高齢者のそれは重い傾向であった。

昭和38年度調査では、1)、2)に改善点が見られたが、3)には大差があらわれなかった。